

初期適応時の日本語指導を進めるにあたって

初期適応時の日本語指導を進めるにあたって

日本語指導が必要な外国人児童生徒にとって、
日本語は第2言語*1である。

- 【課題】
- ・ 学校生活における当該児童生徒のコミュニケーションを充実させること
 - ・ 当該児童生徒の母国の言語や文化を尊重すること *2

必要な取組や配慮

【信頼関係を築く教師の姿勢】

- ・ 当該児童生徒の母国に関心を持ち、理解しようとする。
- ・ 進歩したことを適時認める。
- ・ 不安や悩みを話せる雰囲気をつくる。

【理解と習熟を図る指導】

- ・ 単語や文節で区切り、簡単な文型で話す。
- ・ 日常的な取組を基本とし、段階的、効率的、継続的な指導を工夫する。
- ・ 学習内容を生かす場を設定する。

【児童生徒をつなぐ学級経営】

- ・ 当該児童生徒とまわりの児童生徒をつなぎ、仲間意識を深める。
- ・ まわりの児童生徒が当該児童生徒の長所や特性、努力を認めることができるようにする。

〈ちがいやよさを認め合う場〉

- 当番や係の活動で助け合う。
- 朝の会、帰りの会の司会で、日本語で話すようにする。

【学校全体での協力体制】

- ・ 担当や担任だけで指導に当たるのでなく、学校全体での協力体制を整備する。
- ・ 当該児童生徒の実態を的確に把握し、教師間の連携に努める。

〈共通理解する場〉

- 当該児童生徒の様子や変化について定期的に情報交換を行い、指導に生かす。

多文化共生の教育

- *1 親などから最初に学んだ第1言語（母語）の次に習得する言語です。日本で学ぶ日本語など、社会での日常的な生活やコミュニケーションの手段となる言語です。
- *2 当該児童生徒のアイデンティティを確立するうえで大切なことです。

初期適応時の日本語指導

日常的に使う話し言葉とひらがな・カタカナの指導をとり上げた。

日常的に使う話し言葉の指導

教師の発音を何度も聞く。
繰り返し練習して覚える。

子どもと子ども、子どもと教師がつながる
第一歩として

自己紹介

- ・当該児童生徒を含め学級のみんなでお互いに自己紹介をし、仲間としての最初の出会いを大切にする。

P 11, 77「あいさつ」

あいさつ

- ・名前を覚えあいさつを交わすことで仲間をつなぎ、人間関係を深められるようにする。
- ・日常的に言葉を交わす中で、自然に言葉を覚えられるようにする。

職員が意図的に声をかけるなど、学校全体であたたかく受け入れていくことや当該児童生徒に対してだけでなく、一人ひとりの児童生徒を大切にしていこうとする学校全体の雰囲気づくりが大切である。

日常によく使う言葉として

P 67「単語集」

P 79「もののなまえ」

学校生活で使う物、教科に関すること

- ・実物を見せながら、学習用具やそうじ道具など、学校生活に必要な物の名前を何度も繰り返し伝え、自然に覚えられるようにする。
- ・実物が用意できないときには、写真やイラスト集を活用したカードを準備しておくとう便利である。

「見て」、「聞いて」、「使
ってみて」覚えられるよ
うにする。

例えば、意図的に用事を伝えたりしてコミュニケーションをは
かり、言葉を使う環境を整える。

P 15「授業で」 P 20「国語」等

・学校生活でよく使う物から教科学習で使う教材・用具の名前に広げる。

P 52「保健室で」 P 59「非常時に関すること」
P 63「学校を休むとき」

健康や安全等に関すること

・不安や悩みなどを伝えるための言葉を学習させる。*1

P 9「数」 P 84「かずのことば」
P 82「すうじ①②」

すうじ・かずのことば

・進め方としては、教師の発声を十分に聞き、一緒に数え、何度も繰り返す。その後、数字を声に出して読み、その読み方を書かせるという、「聞く・話す・読む・書く」という一連の学習の流れを大切にす。

P 7「曜日・時・月・季節」
P 80「月日のことば」
P 81「ときのことば」

月・日・曜日・時・季節

・「今日は、何月何日何曜日ですか。」等、毎日当該児童生徒に問いかけ定着をはかる。

色

P 35「図画工作・美術」

・色の名前を言いながら色をぬる活動を取り入れると、効果的である。

学習した言葉を生かすために

P 48「給食の時間」
P 51「朝の会・帰りの会」

朝の会・帰りの会、給食の時間

・他の児童生徒と同じように、朝の会や帰りの会の司会、係からの連絡等、日常的に活動することが大切である。このことは、日本語を話すよい機会となり、当該児童生徒にとって生きた学習となる。

仲間どうしのコミュニケーションが、言葉を習得するチャンスとなる。

学級の一員として、互いに助け合い協力して活動できるよう配慮する。

*1 危険をとまなうことは、指導者が当該児童生徒の母語を使って早く伝えることが必要です。母語を使うことが無理な場合は、絵と動作で示したり、手や表情で伝えたりすることも効果的です。

ひらがな・カタカナの指導

P 73 「ひらがな練習用プリント」
P 75 「カタカナ練習用プリント」

当該児童生徒の学習言語の獲得に大きな影響を及ぼすので大切に扱う。

- ・かな文字を何度も声に出して読ませてから、書かせるようにする。
- ・文字の始筆・書き順・形、はね・はらい・とめ・曲がりなど、正しい表記の仕方をていねいに指導する。
- ・書く練習をしながら、その文字で始まる言葉を発音させる。手元に絵カードを用意するなどして指導する。
- ・50音の練習が終わったら、濁音・拗音・促音・撥音なども含んだ言葉の練習をさせていく。
- ・練習帳やドリルには直接書かせず、ノートや別に刷ったプリントに書かせて、何回も繰り返し練習できるようにする。
- ・日常生活の場で少しずつ話したり書いたりする機会を設け、学習したことを生かしたことを認め、児童生徒の意欲につなげる。

自分や友だち、教師の名前を書くプリントを用意するとよい。

ゲーム感覚で楽しく学べる工夫を入れるとよい。

P 89 「日本語指導カリキュラム」

初期適応時の日本語指導のカリキュラムを作成し、計画的に学習を進めていくようにする。

生活言語能力が高まってきたとしても、学習言語能力が育っていくには時間がかかるので、指導者はねばり強く指導していくことが大切である。